

授業 科目名	心理学 (Psychology)	履修年次:1~4年	2単位 30時間	担当教員名: 高橋良博 (非常勤講師室)
		必修:作 選択:看,栄,歯,理	コード: LAA101	
〔DP〕 実践に必要な知識 コミュニケーション能力 生涯にわたる探究心と自己研鑽				
〔授業の到達目標及びテーマ〕 授業の到達目標: この講義は、初めて心理学を学ぶ学生に、心理学の歴史、基本的概念や研究法、を学ぶこと、人間の心理学的理解に関心を持ってもらうこと、人間の心理学的理解を基礎に、健常者の心理を理解した上で臨床と関連づけ、病者、高齢者、障害者の心理の理解やかかわりに活かす事が出来るようになること。の3項を目標としている。 テーマ:「基礎から学ぶ心理学」				
〔授業の概要〕 心理学の主な研究領域の中から心理学の定義と歴史、感覚、知覚、学習、記憶、性格などの問題を中心に、基本的な概念と研究法などを学ぶ。それと共に心理学の知識を臨床にどのように活かすかを併せて示しながら授業を展開する。時間の許す範囲で可能な限り教室の中で出来る簡単な実験や心理テストなどもとり入れ、心理学研究の雰囲気も伝えてゆきたい。 キーワード: 心理学, 概論, 臨床, 健常者・患者・障害者・高齢者のこころの理解				
〔授業計画〕				
回数	日付	テーマ	内容	
第1回	4/11	心理学とは何か	心理学の定義と歴史・医療との関わり	
第2回	4/18	心理学の領域と研究法	心理学の領域と研究法	
第3回	4/25	感覚 (1)	1) 感覚とは何か 2) 視覚の特性	
第4回	5/02	感覚 (2)	1) 聴覚の特性 2) 聴覚の異常・障害・加齢による変化	
第5回	5/09	感覚 (3)	1) 味覚の特性 2) 嗅覚の特性 3) その他の感覚	
第6回	5/16	知覚 (1)	1) 知覚の特性 2) 知覚のまとめ 3) 知覚の意味づけ	
第7回	5/23	知覚 (2)	1) 錯覚と錯視 2) 錯覚と幻覚 3) 知覚成立と内的要因	
第8回	5/30	学習 (1)	1) 学習の定義 2) 古典的条件づけ	
第9回	6/06	学習 (2)	1) 道具的条件づけ 2) 学習理論と行動療法	
第10回	6/13	記憶 (1)	1) 記憶の過程 2) 感覚記憶 3) 短期記憶	
第11回	6/20	記憶 (2)	1) 長期記憶 2) 忘却の要因 3) 記憶の異常と障害	
第12回	6/27	適応 (1)	1) 人と環境 2) 欲求と動機づけ 3) 葛藤と欲求不満	
第13回	7/04	人格 (1)	1) パーソナリティの理論 2) 類型論の立場	
第14回	7/11	人格 (2)	1) エッシャーとユングの類型論 2) 類型論の利点と問題点	
第15回	7/18	人格 (3)	1) 特性論 2) 特性論の利点と問題点 3) 構造論 まとめ	
履修条件	特になし			
予習・復習	予習: 次回の講義内容として示されたテーマについて、テキストの該当箇所に目を通しておく。 復習: 講義で板書され説明されたテクニカルターム等を調べて良く理解し知識を整理しておく。			
テキスト	『人間理解の科学 [第2版] 心理学への招待』 鈴木清 編 カニシ出版			
参考書・参考資料等	『看護心理学』 鋤柄増根 編 カニシ出版 他、講義中に適宜紹介する。			
学生に対する評価	定期試験 (50%) 講義への取り組み、学習態度 (50%) などを得点化し総合的に評価する。			

授業 科目名	哲学 (Philosophy)	履修年次 選択	2 単位 30 時間	担当教員名: 大澤 真生 (非常勤講師室)
		全学科専攻 1~4 年	コード:LAA102	
〔DP〕 倫理観とプロフェッショナリズム, 実践に必要な知識, 生涯にわたる探究心と自己研鑽				
〔授業の到達目標及びテーマ〕 受講生が、哲学・倫理学の基礎的な内容を理解すること、当たり前とされている事柄について批判的に吟味する力を得ること、現代社会の様々な問題に対して哲学・倫理的視点からアプローチする態度を養うことを目標とする。テーマは近現代の西洋哲学(とくに倫理学)である。				
〔授業の概要〕 授業では、参加者が自分で問いをたて、自分で考えることが目指される。哲学者はそれぞれ自分の生き方の哲学を展開するだけで、わたしたちは彼らの言葉から感銘を受けるような言葉を見つけ出せればよいと考える人もいるが、それは間違いである。通常、「...の哲学」などといわれて、個々別々にいろいろな哲学があるように見えるなかにも、「批判的に思考すること」という共通の営みがある。この授業は、毎回、適当な題材をもとにして問いを立て、批判的な思考を育むことを要求する。 キーワード: 哲学、倫理学、リベラリズム、ケアの倫理、フェミニズム				
〔授業計画〕				
回数	日付	テ ー マ	内 容	
第 1 回	4/12	初回ガイダンス	講義の概要・進め方を確認する。	
第 2 回	4/19	倫理学とは何か	倫理学がどのような思考の営みであるかを確認する。	
第 3 回	4/26	幸福とは何か	アリストテレスの幸福論について学ぶ。	
第 4 回	5/10	幸福とは何か	現代社会における幸福のありかたを考える。	
第 5 回	5/17	正義とは何か	正義とは何か、功利主義にそくして考える。	
第 6 回	5/24	正義とは何か	正義とは何か、カントの義務論にそくして考える。	
第 7 回	5/31	正義とは何か	正義とは何か、ロールズの正義論にそくして考える。	
第 8 回	6/7	人間とは何か	ハイデガーの人間・行為分析について学ぶ。	
第 9 回	6/14	人間とは何か	前回の続き、その問題点を批判的視角から検討する。	
第 10 回	6/21	自由とは何か	ヘーゲルの自由論、国家論について学ぶ。	
第 11 回	6/28	自由とは何か	前回の続き、その問題点を批判的視角から検討する。	
第 12 回	7/5	ケアの倫理	ケアの倫理についての基礎的な知識を身につける。	
第 13 回	7/12	フェミニズム	フェミニズムの基礎的な知識及び歴史について学ぶ。	
第 14 回	7/19	フェミニズム	前回の続き、フェミニズムを多角的な視点から学ぶ。	
第 15 回	7/26	今学期のまとめ	今学期のまとめ・学期末レポートの説明など。	
履修条件	特になし。			
予習・復習	予習: 次回資料に目を通す。 復習: 資料・ノート読み返して理解を深める。			
テキスト	特になし。毎回資料を配布する。			
参考書・参考資料等	必要に応じて授業時に提示する。			
学生に対する評価	学期末レポート(70%) 日ごろの学習態度(30%)により、総合的に評価する。			

授業 科目名	文学 (Japanese literature)	履修年次 選択	2単位 30時間	担当教員名: 柴 佳世乃 (非常勤講師室)
		全学科専攻 1~4年	コード:LAA102	
〔DP〕 実践に必要な知識 生涯にわたる探究心と自己研鑽				
〔授業の到達目標及びテーマ〕 本授業では、現代に生きる我々に通ずる人間模様の様々を考察するため、文学とりわけ古典文学の読解に取り組む。古典文学を読む際に必要な、歴史・文化的背景やことばの解読などの基礎的な力を養う。具体的には、中世文学の白眉である『宇治拾遺物語』を精読し、その魅力を堪能する。				
〔授業の概要〕 中世は説話の時代と言われ、多くの説話集が編まれるが、なかでも鎌倉時代前期に成った『宇治拾遺物語』は、独特の表現や配列を持ち、魅力あふれる説話集である。本授業では講義形式により、古典文学・説話文学の概観を行ったのち、『宇治拾遺物語』各話を味読しつつ、すぐれた人間洞察や、表現の面白さを存分に味わいたい。また、そこから垣間見える中世の文学・文化を広く学ぶことを目的とする。				
キーワード: 文学、古典、中世文学、説話、宇治拾遺物語				
〔授業計画〕				
回数	日付	テーマ	内 容	
第1回	4/9	ガイダンス	説話文学の魅力について	
第2回	4/16	宇治拾遺の魅力 序文	宇治拾遺物語について。以下、各話を味読する。	
第3回	4/23	第183話	大将愼みの話	
第4回	4/30	第184話	藤原道長の犬、および安倍晴明の話	
第5回	5/7	第185話	高階俊平の弟の算術の話	
第6回	5/14	第186話	清見原天皇が大友皇子と合戦する話	
第7回	5/21	第187話	安倍頼時が胡人を見た話	
第8回	5/28	第188話	賀茂祭の帰さに下野武正・兼行をご覧した話	
第9回	6/4	第189話	門部府生が海賊を射返す話	
第10回	6/11	第190話	通清が人違いして関白殿にお会いする話	
第11回	6/18	第191話	極楽寺の僧が仁王経の験を施す話	
第12回	6/25	第192話	世恒が毘沙門の御下文を賜る話	
第13回	7/2	第193話	相応和尚の話	
第14回	7/9	第194話	仁戒上人の往生の話	
第15回	7/16	まとめ	授業全体を通じたまとめと確認	
履修条件	特になし			
予習・復習	テキストを事前に読んでくること。配付資料などで考察を深めること。			
テキスト	角川ソフィア文庫『宇治拾遺物語』(角川書店)			
参考書・参考資料等	授業中にプリントを配る。			
学生に対する評価	期末レポート(60%)、授業参加の態度(40%)により、総合的に評価する。			

授業 科目名	歴史と文化 (History and Culture)	履修年次 選択	2 単位 30 時間	担当教員名: 小関悠一郎 (非常勤講師室)
		全学科専攻 1~4 年	コード: LAA104	
〔 DP 〕 生涯にわたる探究心と自己研鑽 コミュニケーション能力				
〔 授業の到達目標及びテーマ 〕 本講義は、近世・近代日本における人々の人命環境と政治、をテーマに開講します。 到達目標は、次の通りです。 (1) 近世・近代日本の様々な政治動向を通して、当時の人々が置かれていた人命環境を理解する。 (2) 歴史的な視点によって社会のあり方を捉える力を身につける。				
〔 授業の概要 〕 近世・近代日本に生きた人々は、人命についてどのような考え方をもち、それは政治・社会の様々な動向とどう関連していたのでしょうか。本講義では、こうした問題を人命環境の語によってとらえ、近世日本（江戸時代）における命をめぐる政治を焦点として概説していきます。 キーワード:近世日本（江戸時代）、人命環境、命をめぐる政治、政治理念、政治改革				
〔 授業計画 〕				
回数	日付	テ - マ	内 容	
第 1 回	4/16	講義概要説明	講義の概要と進め方・成績評価の方法など	
第 2 回	4/23	日本近世史概説	人口からみた日本近世	
第 3 回	4/30	日本近世史概説	近世日本の政治理念：江戸時代の政治は何を目指したか	
第 4 回	5/7	戦国の記憶	近世人が政治に希求したもの：人々は戦国の世をどう見たか	
第 5 回	5/14	人民統治の課題	人々の生命を保障しようとする政治権力	
第 6 回	5/21	生類憐みの時代	徳川幕府の政治と命をめぐる意識の変容	
第 7 回	5/28	仁政と医療政策	政治権力による医学知の掌握；徳川吉宗の政治から	
第 8 回	6/4	飢饉と政治	近世の飢饉と人命：人災としての災害を考える	
第 9 回	6/18	改革の時代	近世政治の改革がもたらしたもの	
第 1 0 回	6/25	産子養育政策の展開	権力による妊娠・出産・育児の管理を考える	
第 1 1 回	7/2	格差社会の展開	商品生産・貨幣経済と民衆：格差と人命をめぐる	
第 1 2 回	7/16	学問の発展と西洋知識摂取	近世の知識人層は西洋の人命観をどう受け止めたか	
第 1 3 回	7/23	富国強兵の時代	近代日本における国民化と人々の身体	
第 1 4 回	7/24	戦争と人命	近世・近代の人命環境のあり方と変化を考える	
第 1 5 回	7/25	まとめ	授業内容を振り返り人命環境と政治の関係について考える	
履修条件	特になし。			
予習・復習	授業を通して指定した文献・資料の予習、小レポートの作成。			
テキスト	各回で授業に関する資料を共有する。			
参考書・参考資料等	岩波新書『上杉鷹山「富国安民」の政治』ほか、授業内で紹介する。			
学生に対する評価	授業態度（20%）、中間レポート・課題（30%）、期末レポート（50%）			

授業 科目名	生命倫理 (Bioethics)	履修年次 1~4年	2単位 30時間	担当教員名: 小館貴幸 [介護福祉士] (非常勤講師室)
		必修: 栄・歯 選択: 看・理・作	コード:LAA105	
		実務経験のある教員による授業科目		
〔DP〕 倫理観とプロフェッショナリズム 実践に必要な知識 コミュニケーション能力				
〔授業の到達目標及びテーマ〕				
<ul style="list-style-type: none"> ・医療を担う者にとって大切な「いのち」の尊厳に基づいた倫理観を養うことができる。 ・生命倫理の諸原則に基づいて、自ら判断する力を習得することができる。 ・患者や家族の思いを理解するための多角的な視点を獲得できる。 				
〔授業の概要〕				
<p>前半では基本的諸事項を講義し、後半ではディスカッションの機会を設けていく。一つのテーマに対してディスカッションと解説を行う。授業では、ディスカッションを通じて他者の意見を聴き、自ら考える場を提供して「現場で答えを出せる力」を養っていく。在宅での難病・終末期ケアにも携わる講師により、現場の声を多く紹介していく。学期末試験は実施せず、日々の議論や課題がメイン評価となる。</p> <p>キーワード:いのち、倫理原則、インフォームド・コンセント、人間の尊厳、ケア</p>				
〔授業計画〕				
回数	日付	テーマ	内 容	
第1回	10/3	食と「いのち」	人間にとっての食とは何かを考察し、いのちの尊厳を考える。	
第2回	10/10	倫理とは何か	倫理の語源や起源を解説し、倫理と医療の関係について述べる。	
第3回	10/17	医の倫理	医の倫理の原点である『ヒポクラテスの誓い』を取り上げる。	
第4回	10/24	医の倫理	医の倫理の概略を示し、その本質や原則について解説する。	
第5回	10/31	生命倫理の成立	「医の倫理」～「生命倫理」への流れを倫理綱領を通して述べる。	
第6回	11/7	生命倫理の四原則	自律尊重の原則、インフォームド・コンセントを取り上げる。	
第7回	11/14	生命倫理の四原則	善行・無危害・公正の原則を取り上げ、四原則を整理する。	
第8回	11/21	生命の始まりの問題	人の始まりについてグループワークを行う。	
第9回	11/28	生命の始まりの問題	人工妊娠中絶を取り上げながら、人の始まりについて考察する。	
第10回	12/5	現代医療の問題	胃ろうを取り上げ、その是非について議論を行う。	
第11回	12/12	現代医療の問題	胃ろうについて解説し、胃ろうの意味と意義について考察する。	
第12回	12/19	生命の終わりの問題	安楽死を取り上げる予定。安楽死に関してグループワークを行う。	
第13回	1/9	生命の終わりの問題	安楽死に関する基本的諸事項を事例を踏まえて解説していく。	
第14回	1/23	いのちをめぐる問題	ターミナルケアについて取り上げる予定。	
第15回	1/30	いのちをめぐる問題	ターミナルケアについて発表を行っていく。	
履修条件	生命倫理 と は基本的に同内容だが、 は食に関する事例を多く取り上げる。			
予習・復習	予習: テキストを熟読し、疑問点を整理する。復習: 授業後の課題に取り組む。			
テキスト	「なぜ生命倫理なのか」朝倉輝一編、大学教育出版刊。 4月公刊。			
参考書・参考資料等	授業の中で適宜紹介する。			
学生に対する評価	小テスト(20%) 中間レポート(10%) 発表(10%) 授業での課題(60%)			

授業 科目名	生命倫理 (Bioethics)	履修年次:1~4年	2単位 30時間	担当教員名: 小館貴幸 [介護福祉士] (非常勤講師室)
		必修:栄・歯 選択:看・理・作	コード:LAA105	
		実務経験のある教員による授業科目		
〔DP〕 倫理観とプロフェッショナリズム 実践に必要な知識 コミュニケーション能力				
〔授業の到達目標及びテーマ〕				
<ul style="list-style-type: none"> ・医療を担う者にとって大切な「いのち」の尊厳に基づいた倫理観を養うことができる。 ・生命倫理の諸原則に基づいて、自ら判断する力を習得することができる。 ・患者や家族の思いを理解するための多角的な視点を獲得できる。 				
〔授業の概要〕				
<p>前半では基本的諸事項を講義し、後半ではディスカッションの機会を設けていく。一つのテーマに対してディスカッションと解説を行う。授業では、ディスカッションを通じて他者の意見を聴き、自ら考える場を提供して「現場で答えを出せる力」を養っていく。在宅での難病・終末期ケアにも携わる講師により、現場の声を多く紹介していく。学期末試験は実施せず、日々の議論や課題がメイン評価となる。</p> <p>キーワード: いのち、倫理原則、インフォームド・コンセント、人間の尊厳、ケア</p>				
〔授業計画〕				
回数	日付	テーマ	内 容	
第1回	10/4	「いのち」について	いのちの語源や起源を明らかにし、いのちの尊厳を考える。	
第2回	10/11	倫理とは何か	倫理の語源や起源を解説し、倫理と医療の関係について述べる。	
第3回	10/18	医の倫理	医の倫理の原点である『ヒポクラテスの誓い』を取り上げる。	
第4回	10/25	医の倫理	医の倫理の概略を示し、その本質や原則について解説する。	
第5回	11/1	生命倫理の成立	「医の倫理」～「生命倫理」への流れを倫理綱領を通して述べる。	
第6回	11/8	生命倫理の四原則	自律尊重の原則、インフォームド・コンセントを取り上げる。	
第7回	11/15	生命倫理の四原則	善行・無危害・公正の原則を取り上げ、四原則を整理する。	
第8回	11/22	生命の始まりの問題	人の始まりについてグループワークを行う。	
第9回	11/29	生命の始まりの問題	人工妊娠中絶を取り上げながら、人の始まりについて考察する。	
第10回	12/6	現代医療の問題	赤ちゃんポストについてグループワークを行う。	
第11回	12/13	現代医療の問題	赤ちゃんポストの現状を紹介し、利点と問題点を考察する。	
第12回	12/20	生命の終わりの問題	安楽死を取り上げる予定。安楽死に関してグループワークを行う。	
第13回	1/10	生命の終わりの問題	安楽死に関する基本的諸事項を事例を踏まえて解説していく。	
第14回	1/24	いのちをめぐる問題	ターミナルケアについて取り上げる予定。	
第15回	1/31	いのちをめぐる問題	ターミナルケアについて発表を行っていく。	
履修条件	生命倫理 と は基本的に同内容だが、 は看護に関する事例を取り上げる。			
予習・復習	予習: テキストを熟読し、疑問点を整理する。復習: 授業後の課題に取り組む。			
テキスト	「なぜ生命倫理なのか」朝倉輝一編、大学教育出版刊。 4月公刊。			
参考書・参考資料等	授業の中で適宜紹介する。			
学生に対する評価	小テスト(20%) 中間レポート(10%) 発表(10%) 授業での課題(60%)			

授業 科目名	宗教学 (History of Religions)	履修年次：選択	2 単位 30 時間	担当教員名: 藤井修平 (非常勤講師室)
		全学科専攻 1~4 年	コード:LAA106	
〔DP〕 実践に必要な知識, 生涯にわたる探究心と自己研鑽, コミュニケーション能力				
〔授業の到達目標及びテーマ〕				
(1) 「宗教」という概念に含まれるさまざまな要素を整理して述べるができる				
(2) 世界の宗教についての知識を、時事問題の理解や日常的な問題の解決に応用することができる				
(3) 政治や福祉など社会の諸側面に、宗教がいかに影響を与えているか適切に説明することができる				
〔授業の概要〕				
「宗教」は一部の人々が信じているもので、多くの人の生活には関わりのないものだと考えている人は多いかもしれません。しかし学問的に見ると、日常で接する占いや迷信、神話には宗教的要素が含まれており、現代の社会や政治にも宗教が大きな影響を及ぼしています。この授業の目的は、宗教学の観点から宗教とは何かを把握し、それが私たちの生活にいかに関わっているかを理解することにあります。				
キーワード：世界の宗教、身近な宗教的事象、社会のさまざまな側面と宗教、スピリチュアリティ				
〔授業計画〕				
回数	日付	テーマ	内 容	
第 1 回	10/4	導入・宗教とは何か	授業計画、評価方法の説明と、宗教学の基礎	
第 2 回	10/11	宗教学的思考	宗教学の研究方法と関連する概念の解説	
第 3 回	10/18	仏教	世界の仏教の概要と現代社会における状況	
第 4 回	10/25	キリスト教	キリスト教の概要と現代社会における状況	
第 5 回	11/1	イスラム教	イスラム教の概要と現代社会における状況	
第 6 回	11/8	儒教・道教	東アジアの宗教思想の概要と現代社会における状況	
第 7 回	11/15	日本宗教	日本の神道・新宗教・妖怪	
第 8 回	11/22	スピリチュアル・ブーム	日本と世界のスピリチュアルな活動の広まり	
第 9 回	11/29	神話	世界の神話と漫画・アニメ・ゲーム等との関わり	
第 10 回	12/6	宗教のネガティブな側面	社会的に問題となっているカルトと疑似科学	
第 11 回	12/13	宗教と政治	宗教が世界の政治にどのように関わっているか	
第 12 回	12/20	宗教と哲学・倫理	宗教の合理的・知的な側面	
第 13 回	1/10	宗教とジェンダー	宗教とジェンダーの関わりと、宗教への批判	
第 14 回	1/24	宗教と医療	宗教と身体・精神の医療の関係	
第 15 回	1/31	宗教とウェルビーイング	宗教と福祉の関わりと実践例	
履修条件	特になし			
予習・復習	次回のテーマに関わるニュースや用語などの予習と、復習として授業で議論した「問い」についての課題を提出する			
テキスト	特になし			
参考書・参考資料等	櫻井義秀、平藤喜久子『よくわかる宗教学』ミネルヴァ書房、2015 年			
学生に対する評価	授業への参加状況 20%、授業後課題 40%、期末レポート 40%			

授業 科目名	教育学 Pedagogy	履修年次: 選択:全学科専攻 1~4年	単位数: 2単位 30時間 コード: LAA107	担当教員名: 広川由子 (研究室 図書館棟 10)
〔DP〕 . コミュニケーション能力 . 他職種との協働 . 生涯にわたる探究心と自己研鑽				
〔授業の到達目標及びテーマ〕 本授業の到達目標は、教育を成り立たせる要素を確認しながら、子ども・若者を取りまく今日的状況や学校の社会的機能を理解しつつ、学校の歴史に立ち戻りながら、自らの教育観を省察することである。そのうえで、現代の教育現場が抱える問題の要因を考察し、確かな見識がもてるようになることである。				
〔授業の概要〕 本授業は、一般教養として教育の基礎知識を以下の四つの観点から概説する。第一に今日、社会問題となっている子ども・若者を取りまく環境について、第二に現代社会において学校の果たす機能について、第三に現代社会における喫緊の教育課題についてである。学生自身が行う作業やグループディスカッション、グループ発表の機会を多く設け、理解を深めつつ進める。 キーワード: 人間と社会、子ども・若者の環境、学校の社会的機能、子どもの教育の歴史、教育政策				
〔授業計画〕				
回数	日付	テ マ	内 容	
第1回	10/7	オリエンテーション	授業計画、授業概要、評価方法の説明	
第2回	10/21	子ども・若者を取りまく環境	学生自らの学校体験の振り返り	
第3回	10/28	子ども・若者を取りまく環境	子どもの貧困	
第4回	11/11	子ども・若者を取りまく環境	子どもの貧困	
第5回	11/18	子ども・若者を取りまく環境	子どもの権利条約	
第6回	11/25	子ども・若者を取りまく環境	子どもの権利条約	
第7回	12/2	現代社会と学校教育	いじめ	
第8回	12/9	現代社会と学校教育	いじめ	
第9回	12/16	現代社会と学校教育	部活動	
第10回	12/23	現代社会と学校教育	部活動	
第11回	1/6	現代社会と教育課題	表現の自由と人権	
第12回	1/20	現代社会と教育課題	表現の自由と人権	
第13回	1/27	現代社会と教育課題	教科書内容の検討	
第14回	1/29	現代社会と教育課題	教科書内容の検討	
第15回	2/3	本授業の振り返り	子ども・若者の未来と展望	
履修条件	特になし。			
予習・復習	予習として配布資料を熟読し、次週の授業のための調べ学習に取り組むこと。復習はレジュメ・配布資料にて授業を振り返りつつ、課題・レポート(授業の感想)等に取り組むこと。			
テキスト	適宜、資料を配布する。			
参考書・参考資料等	片山悠樹他(2019)『半径5メートルからの教育社会学』大月書店			
学生に対する評価	学習態度(20%)、ディスカッション・発表(30%)、課題・レポート(50%)による総合評価。			

授業 科目名	人間関係論 (Theory of human relation)	必修：理	2 単位 30 時間	担当教員名: 常山 吾朗 [公認心理師・臨床心理士] (非常勤講師室)
		選択：看・栄 歯・作	コード：LAA108	
		実務経験のある教員による授業科目		
〔DP〕 健康づくりの実践 健康づくりの環境整備・改善 生涯にわたる探求心と自己研鑽				
〔授業の到達目標及びテーマ〕 自分の在り方を他者から強要されず、それぞれの在り方で共存が可能になる、より汎用性のある人間関係とは何か、そのために身につけるべき視点・考え方・姿勢とは如何なるものか、を考える。				
〔授業の概要〕 ・心理臨床現場の一知見をもとに、健康/不健康な人間関係、精神状態、様々な問題、回復過程などを概観する。 ・映画等を題材に用いることにより、テーマ・内容の理解を守秘義務に抵触しない形で深めてもらう。				
キーワード：相互承認				
〔授業計画〕				
回数	日付	テーマ	内 容	
第 1 回	4/12	オリエンテーション	科目目標・授業概要・評価の説明	
第 2 回	4/19	心を守るもの	『となりのトトロ』を題材に 心を守るもの	
第 3 回	4/26	心理的自立	心理的自立	
第 4 回	5/10	相互承認の関係 1	『千と千尋の神隠し』を題材に 保護者像の変化	
第 5 回	5/17	相互承認の関係 2	相互承認の関係	
第 6 回	5/24	相互承認の関係 3	感情の流れ	
第 7 回	5/31	相互承認の関係 4	精神的健康	
第 8 回	6/7	子ども虐待 1	『きみはいい子』を題材に	
第 9 回	6/14	子ども虐待 2	世代間伝達をとめるには	
第 10 回	6/21	いじめ 1	『Das experiment』を題材に	
第 11 回	6/28	いじめ 2	蔓延とエスカレータを防ぐ手立て	
第 12 回	7/5	関係回復 1	『おもひでぼろぼろ』を題材に	
第 13 回	7/12	関係回復 2	心が傷つくとは	
第 14 回	7/19	関係回復 3	自己治療の試み	
第 15 回	7/26	関係回復 4	心の傷の回復	
履修条件	特になし			
予習・復習	予習：資料の一読。 復習：資料の再読。わからない点は質問する。			
テキスト	なし(資料を配布する)			
参考書・参考資料等	適宜紹介する			
学生に対する評価	レスポンスシートに記入する意見・考察(感想不可。3文章。書き方は講義内で説明) 100%			

授業 科目名	コミュニケーション理論 と実際 (Theory and practice of communication)	必修：理	2 単位 30 時間	担当教員名: 常山 吾朗 [公認心理師・臨床心理士] (非常勤講師室)
		選択：看・栄 歯・作	コード：LAA109	
		実務経験のある教員による授業科目		
〔DP〕 コミュニケーション能力 実践に必要な知識 健康づくりの実践				
〔授業の到達目標及びテーマ〕				
<ul style="list-style-type: none"> ・コミュニケーションの多様性を理解する。特に非言語的コミュニケーションの重要性について理解を深める。 ・医療従事者に必須とされるコミュニケーション技術を身につける。 ・コミュニケーションは情報伝達手段にとどまらず、心の健康を左右することについて理解する。 				
〔授業の概要〕				
<ul style="list-style-type: none"> ・日常生活や職業で活かせるコミュニケーションの技術・知識を、体験学習をまじえながら考え、身につける。 ・体験学習で必要とされるのは、話し上手であることではなく、伝えようとする意思・姿勢である。 				
キーワード：非言語情報 準言語情報 言語情報				
〔授業計画〕				
回数	日付	テーマ	内 容	
第 1 回	4/12	オリエンテーション	授業目標・授業概要・評価方法の説明	
第 2 回	4/19	非言語情報 1	コミュニケーションにおける情報・向き・高さ	
第 3 回	4/26	非言語情報 2	距離・話をしない情報収集	
第 4 回	5/10	非言語情報 3	あいづち・うなずき	
第 5 回	5/17	準言語情報 1	早さ・明瞭さ・語尾	
第 6 回	5/24	準言語情報 2	口の大きさ・高齢者とのコミュニケーション・モダリティ他	
第 7 回	5/31	言語情報 1	傾聴・受容・聞く効果・肯定の作用	
第 8 回	6/7	言語情報 2	繰り返し・要約	
第 9 回	6/14	言語情報 3	共感・言葉の 2 機能他	
第 10 回	6/21	言語情報 4	反映・直面化・自己開示	
第 11 回	6/28	言語情報 5	明確化・質問の型	
第 12 回	7/5	非言語情報 4 他	ラポール形成・自己理解 / 他者理解	
第 13 回	7/12	応用編 1	言動の理由・話し合いの準備	
第 14 回	7/19	応用編 2	話し合い	
第 15 回	7/26	応用編 3	パートナー紹介・肯定メッセージ	
履修条件		特になし		
予習・復習		予習：資料の一読。 復習：資料の再読。 わからない点は質問する。		
テキスト		なし（資料を毎回配布する）		
参考書・参考資料等		なし		
学生に対する評価		テストによる評価 55%。 レスポンスシート記載内容による評価 45%。 * 評価方法・配点は予定。		

授業 科目名	健康スポーツ科学 (Health and Sports Sciences)	履修年次	単位数:	担当教員名: 島田美恵子 [健康運動指導士] (研究室:A棟412)
		必修:歯	1単位30時間	
		選択:看・栄・理・作	コード:LAA110	
		実務経験のある教員による授業科目		
〔DP〕 .コミュニケーション能力 健康づくりの実践 生涯にわたる探究心と自己研鑽				
〔授業の到達目標及びテーマ〕 本授業では、自らの「からだ」を理解し、管理・創造できる能力を養いながらスポーツを楽しむことを目的とする。到達目標は以下の通りである。 健康・体力づくりの基礎理論を理解する。 様々なスポーツ実践から、スポーツ種目の特性を理解できる。 主体性・協調性を身につけ、ゲームを自主運営できる。				
〔授業の概要〕 各種スポーツの実践を通して、その特性を知り、からだへの影響や運動の楽しさを体得する。運動によるからだの変化を評価する方法を学ぶ。ルールを改変することによりゲームの楽しさが異なることを知り、対象者に合わせたゲーム運営ができるようにする。				
キーワード: スポーツ 健康づくり 仲間づくり 積極的休養				
〔授業計画〕				
回数	日付	テ - マ	内 容	
第1回	4/12	ガイダンス	運動の効用についての説明を受け、受講のルールを確認する	
第2回	4/19	体力テスト	文部科学省 新体力テストを基本とした家庭でも測定できる種目	
第3回	4/26	健康づくりのための運動	準備運動 整理運動 の意味と実践	
第4回	5/10	選択スポーツ 1	集団競技	ルールを理解して楽しむ
第5回	5/17	選択スポーツ 2	集団競技	基本の技術を理解 ルールを変更して楽しむ
第6回	5/24	選択スポーツ 3	集団競技	戦術を理解して楽しむ
第7回	5/31	選択スポーツ 4	集団競技	課題の提示
第8回	6/7	選択スポーツ 5	集団競技	まとめ 対抗戦
第9回	6/14	選択スポーツ 1	個人・ペア競技	ルールを理解する
第10回	6/21	選択スポーツ 2	個人・ペア競技	基本の技術を理解する ルールを変更する
第11回	6/28	選択スポーツ 3	個人・ペア競技	戦術を理解して楽しむ 1
第12回	7/5	選択スポーツ 4	個人・ペア競技	戦術を理解して楽しむ 2
第13回	7/12	選択スポーツ 5	個人・ペア競技	まとめ 対抗戦
第14回	7/19	体力テスト	文部科学省 新体力テスト 競技に特化した体力テスト	
第15回	7/26	まとめと総括	レポート作成: テーマ 自己体力診断 運動習慣自己評価	
履修条件	なし			
予習・復習	予習: 課題の提示あり。復習: 自主学習時間でFormsにて記録を作成・提出する。			
テキスト	なし			
参考書・参考資料等	参考資料: 観るまえに読む大修館スポーツルール2023(大修館書店)			
学生に対する評価	授業態度(意欲・積極性等)60% 毎回の記録およびレポート40%			

授業 科目名	健康スポーツ科学 (Health and Sports Sciences)	履修年次	単位数:	担当教員名: 島田美恵子 [健康運動指導士] (研究室:A棟412)
		必修:歯 選択:看・栄・理・作	1単位:30時間 コード:LAA110	
		実務経験のある教員による授業科目		
〔DP〕 .コミュニケーション能力 健康づくりの実践 生涯にわたる探究心と自己研鑽				
〔授業の到達目標及びテーマ〕 本授業では、自らの「からだ」を理解し、管理・創造できる能力を養いながらスポーツを楽しむことを目的とする。到達目標は以下の通りである。 健康・体力づくりの基礎理論を理解する。 様々なスポーツ実践から、スポーツ種目の特性を理解できる。 主体性・協調性を身につけ、ゲームを自主運営できる。				
〔授業の概要〕 各種スポーツの実践を通して、その特性を知り、からだへの影響や運動の楽しさを体得する。運動によるからだの変化を評価する方法を学ぶ。ルールを改変することによりゲームの楽しさが異なることを知り、対象者に合わせたゲーム運営ができるようにする。				
キーワード: スポーツ 健康づくり 仲間づくり 積極的休養				
〔授業計画〕				
回数	日付	テーマ	内 容	
第1回	10/1	ガイダンス	運動の効用についての説明を受け、受講のルールを確認する	
第2回	10/8	体力テスト	文部科学省 新体力テストを基本とした家庭でも測定できる種目 ウォーミングアップとクールダウン	
第3回	10/22	スポーツの運動強度 1	運動強度の算出方法を理解する	バドミントン 1
第4回	10/29	スポーツの運動強度 2	MET sを理解する	バドミントン 2
第5回	11/5	健康づくりのための運動量	1週間に4MET s・時の運動の実践	バドミントン 3
第6回	11/12	競技時間	各種スポーツの試合時間を調べる	卓球 1
第7回	11/19	競技特性	各種スポーツの特性を知る	卓球 2
第8回	11/26	ルール	ルールが意味すること	卓球 3
第9回	12/3	集団ゲーム	集団スポーツ・ルールを知る	バレーボール バスケットボール1
第10回	12/10	集団ゲーム	集団スポーツ・技術を知る	バレーボール バスケットボール2
第11回	12/17	集団ゲーム	集団スポーツ・戦術を知る	バレーボール バスケットボール3
第12回	1/7	ゴール型ゲーム	集団スポーツ	フットサル
第13回	1/14	パラスポーツ	パラスポーツをさがそう	パラスポーツ体験
第14回	1/21	体力テスト	文部科学省 新体力テストを基本とした測定。効果判定	
第15回	1/28	まとめと総括	レポート作成:テーマ 自己体力診断 運動習慣自己評価	
履修条件	なし			
予習・復習	予習:課題の提示あり。復習:自主学習時間でFormsにて記録を作成・提出する。			
テキスト	なし			
参考書・参考資料等	参考資料:観るまえに読む大修館スポーツルール2023(大修館書店)			
学生に対する評価	授業態度(意欲・積極性等)60% 毎回の記録およびレポート40%			

授業 科目名	生涯身体運動科学 (Physical Fitness for the life)	履修年次	1 単位:30 時間	担当教員名: 島田美恵子 [健康運動指導士] (研究室:A 棟 412)
		選択: 全学科・専攻 1 ~ 4 年	コード: LAA111	
		実務経験のある教員による授業科目		
〔DP〕 .コミュニケーション能力 健康づくりの実践 生涯にわたる探究心と自己研鑽				
〔授業の到達目標及びテーマ〕				
<p>「身体活動」は、体力の維持・向上を目的として計画的・意図的に実施する「運動」と、日常生活における通学・労働などの「生活活動」で構成される。本授業では、生涯にわたって、いつでもどこでも自らの健康・体力づくりに取り組むための手法と、適度な筋肉量を備えたからだを養う方法を学ぶ。到達目標は、健康・体力づくりの基礎理論を理解すること 筋肉量を増加させる運動・身体活動を実践できること(除脂肪量増加) の2点である。</p>				
〔授業の概要〕				
<p>主に歩行を中心とした身体運動や日常生活活動中に実施できる筋力トレーニングを通して、からだが変わっていくことや運動の楽しさを体得する。また、健康に関連する体力を評価する方法を学ぶ。体脂肪率は男子10~15%、女子20~25%が基準とされるが、自分にとって適切な体脂肪率・体組成を理解し、からだづくりを実践する。毎回、体重・体脂肪率(腹囲)を測定する。</p>				
キーワード: 健康・体力づくり 適正体重 日常身体活動量				
〔授業計画〕				
回数	日付	テ - マ	内 容	
第1回	4/12	ガイダンス	体組成評価の方法を知る	
第2回	4/19	体力テスト	新体力テストを基本とした測定	
第3回	4/26	身体活動基準	推奨される1週間あたりの運動量を知る	
第4回	5/10	ストレッチ	からだをメンテナンスする手法を知る	
第5回	5/17	歩行	体脂肪の燃焼に効果的な運動強度 脈拍で運動の強度を測る	
第6回	5/24	歩行	体脂肪の燃焼に必要な運動時間を理解して実践する	
第7回	5/31	生活習慣チェック歩行	課題の提示 (食事・睡眠・体内リズムと体重の変化振り返り)	
第8回	6/7	歩行	歩幅、歩容を測定・評価する。	
第9回	6/14	ジョギング	運動強度を高める インターバルジョギングなど	
第10回	6/21	筋力トレーニング	筋力を高める理論とトレーニングの方法を知る	
第11回	6/28	筋力トレーニング	筋肉に対する様々な筋力トレーニングを実践する	
第12回	7/5	調整力トレーニング	調整力の意味を理解し、トレーニング法を知る	
第13回	7/12	からだのイメージ	野口体操など、動きとイメージから表現運動を実践する	
第14回	7/19	体力テスト	からだの変化を測定し、評価する	
第15回	7/26	レポート作成	レポートのテーマ 自己体力診断 除脂肪量を増やす実践についてまとめ	
履修条件		なし		
予習・復習		実技授業に備えての体調管理。余暇時間は適度な身体活動を実践すること。復習: 自主学習時間でFormsにて記録を作成・提出する。		
テキスト		なし		
参考書・参考資料等		必要に応じて資料を配付する。		
学生に対する評価		授業態度(意欲・積極性等)60% 毎回の記録およびレポート 40%		

授業 科目名	生涯身体運動科学 (Physical Fitness for the life)	履修年次	1 単位:30 時間	担当教員名: 島田美恵子 [健康運動指導士] (研究室:A棟412)
		選択:全学科・専攻 1~4年	コード:LAA111	
		実務経験のある教員による授業科目		
〔DP〕 .コミュニケーション能力 健康づくりの実践 生涯にわたる探究心と自己研鑽				
〔授業の到達目標及びテーマ〕 「身体活動」は、体力の維持・向上を目的として計画的・意図的に実施する「運動」と、日常生活における通学・労働などの「生活活動」で構成される。本授業では、生涯にわたって、いつでもどこでも自らの健康・体力づくりに取り組むための手法と、適度な筋肉量を備えたからだを養う方法を学ぶ。到達目標は、健康・体力づくりの基礎理論を理解すること 筋肉量を増加させる運動・身体活動を実践できること(除脂肪量増加) の2点である。				
〔授業の概要〕 主に歩行を中心とした身体運動や日常生活活動中に実施できる筋力トレーニングを通して、からだの変化していくことや運動の楽しさを体得する。また、健康に関連する体力を評価する方法を学ぶ。体脂肪率は男子10~15%、女子20~25%が基準とされるが、自分にとって適切な体脂肪率・体組成を理解し、からだづくりを実践する。毎回、体重・体脂肪率(腹囲)を測定する。 キーワード:健康・体力づくり 適正体重 日常身体活動量				
〔授業計画〕				
回数	日付	テーマ	内容	
第1回	10/4	ガイダンス	体組成評価の方法を知る	
第2回	10/11	体力テスト	新体力テストを基本とした測定	
第3回	10/18	身体活動基準	推奨される1週間あたりの運動量を知る	
第4回	10/25	ストレッチ	からだをメンテナンスする手法を知る	
第5回	11/1	歩行	体脂肪の燃焼に効果的な運動強度 脈拍で運動の強度を測る	
第6回	11/8	歩行	体脂肪の燃焼に必要な運動時間を理解して実践する	
第7回	11/15	歩行	歩幅と歩く速さ、姿勢と歩き方を測定・評価する	
第8回	11/22	ジョギング	運動強度を高める インターバルジョギングなど	
第9回	11/29	生活習慣チェック	(食事・睡眠・体内リズムと体重の変化を振り返る)	
第10回	12/6	筋力トレーニング	筋力を高める理論とトレーニングの方法を知る	
第11回	12/13	筋力トレーニング	筋肉に対する様々な筋力トレーニングを実践する	
第12回	12/20	調整力トレーニング	調整力の意味を理解し、トレーニング法を知る	
第13回	1/10	からだのイメージ	野口体操など、動きとイメージから表現運動を実践する	
第14回	1/24	体力テスト	からだの変化を測定し、評価する	
第15回	1/31	レポート作成	レポートのテーマ 自己体力診断 除脂肪量を増やす実践についてまとめ	
履修条件	なし			
予習・復習	実技授業に備えての体調管理。余暇時間は適度な身体活動を実践すること。復習:自主学習時間でFormsにて記録を作成・提出する。			
テキスト	なし			
参考書・参考資料等	必要に応じて資料を配布する			
学生に対する評価	授業態度(意欲・積極性等)60% 毎回の記録およびレポート40%			

授業 科目名	生活とデザイン (Life and Design)	履修年次：選択	2 単位 30 時間	担当教員名： 上野 義雪 (非常勤講師室)
		全学科専攻 1~4 年	コード: LAB101	
		実務経験のある教員による授業科目		
〔DP〕 実践に必要な知識、健康づくりの環境の整備・改善、生涯にわたる探究心と自己研鑽				
〔授業の到達目標及びテーマ〕日常生活は、デザインされた多くの「もの・空間」と関わりをもつ。安全で円滑な生活は医療従事者として不可欠であり、生活科学の視点で人間の諸特性の理解、生活の観察などにより「もの・空間」の使い手としての使い方を理解し、生活に関係する「もの・空間」の見方、選び方、使い方、そして評価する能力を身につけることができる。				
〔授業の概要〕「もの・空間」の多くはデザイン性を優先して作られることが多い中で、生活科学の応用例の紹介を通して「もの・空間」の機能や人との関わりを考え、問題の発見や解決のできる知識を習得する。講師の「建築・室内・人間工学」における教育・研究・社会的活動における実務経験をもとに、生活に関わる「もの・空間」の使用性について評価のできる内容とした。				
キーワード: 日常生活 デザイン 生活デザイン ユニバーサルデザイン 安全性 機能性 評価				
〔授業計画〕				
回数	日付	テ - マ	内 容	
第 1 回	10/07	生活とデザイン	生活ともの・空間デザイン、生活科学との関わり	
第 2 回	10/21	ユニバーサルデザイン	ユニバーサルデザイン、SDGs とデザイン	
第 3 回	10/28	保健・医療への応用	看護・栄養・歯科・リハビリ分野におけるもの・空間	
第 4 回	11/11	もの使いと五感	五感のもの・空間への応用	
第 5 回	11/18	ステレオタイプ	ポピュレーションステレオタイプのデザインへの応用	
第 6 回	11/25	人体寸法・動作寸法	人体・動作寸法の特徴ともの・空間デザイン	
第 7 回	12/02	工業製品への応用	日常生活機器・道具のデザイン	
第 8 回	12/09	人体系家具への応用	家具の分類 いすのデザイン	
第 9 回	12/16	シートへの応用	自動車・鉄道・航空機用シートのデザイン	
第 10 回	12/23	寝具への応用	寝具の役割とデザイン	
第 11 回	01/06	準人体系家具への応用	机・テーブル・作業台の役割とデザイン	
第 12 回	01/20	建物系家具への応用	収納家具・衝立の役割とデザイン	
第 13 回	01/27	キッチン設備への応用	キッチン設備のデザイン	
第 14 回	01/29	トイレ設備への応用	トイレ設備のデザイン	
第 15 回	02/03	浴室・洗面設備への応用	浴室・洗面設備のデザイン 15 週のまとめ	
履修条件	特になし			
予習・復習	予習：配布資料を熟読。 復習：ノートの見直し。			
テキスト	特になし。必要な資料は事前に配布する。			
参考書・参考資料等	特になし。			
学生に対する評価	15 週の実レポート (90%)、学習態度 (10%) により、総合的に評価する。			

授業 科目名	法学（日本国憲法） （Law）	履修年次：1～4年	2単位 30時間	担当教員名： 古屋 等 （非常勤講師室）
		必修：歯 選択：看栄理作	コード：LAB102	
〔DP〕 . 実践に必要な知識 . 他職種との協働 . 生涯にわたる探究心と自己研鑽				
〔授業の到達目標及びテーマ〕 法の本質を理解し、日常生活で生じる諸問題を、権利や自由の観点から考察できる能力を育成する。				
〔授業の概要〕 法とは成文であれ不文であれ、私たちの自由や権利を守るための相互の契約（＝合意）を意味します。国家創造にあたり制定された法が憲法であり、具体的な生活関係を規律するために議会により制定された法が法律です。いずれも、私たちの自由や権利を保障しますが、これらも社会における相互調整のために一定の制約に服します。この授業では、自由や権利が保障される限度や制約の必要について学びます。				
キーワード：基本的人権、国民主権、民主主義、法の支配、公共の福祉、司法審査				
〔授業計画〕				
回数	日付	テーマ	内容	
第1回	4/12	ガイダンス	授業計画、履修上の注意、法の学び方	
第2回	4/19	法とは何か	法の本質と目的、法の遵守と実効性	
第3回	4/26	法の種類と段階構造	成文法と不文法、憲法の最高法規性	
第4回	5/10	法律用語と法解釈	成文法の解釈方法、法の一般原則	
第5回	5/17	近代憲法の意義	近代憲法の構成要素と立憲主義	
第6回	5/24	憲法の基本原理	憲法前文と国民主権、民主主義、小テスト	
第7回	5/31	憲法の基本原理	権力分立と法の支配の原則	
第8回	6/7	第9条と平和主義	主権国家と自衛権、国連憲章第51条	
第9回	6/14	第9条と平和主義	第9条をめぐる学説と政府見解の対立	
第10回	6/21	基本的人権の本質	個人の平等と人格の尊重、人権の概念、小テスト	
第11回	6/28	基本的人権の種類	人権の歴史的生成と自由権の種類	
第12回	7/5	基本的人権の保障	個人人権規定と新しい人権	
第13回	7/12	基本的人権の内容	精神的自由権と経済的自由権	
第14回	7/19	基本的人権の内容	経済的自由権と社会権、小テスト	
第15回	7/26	基本的人権の限界	司法審査と違憲立法審査制度	
履修条件	なし			
予習・復習	事前にテキストを講読し、レジユメの該当箇所を閲覧しておいてください。			
テキスト	上野幸彦・古屋等『国家と社会の基本法』〔第5版〕（成文堂）			
参考書・参考資料等	テキストを持参いただければ不要です。			
学生に対する評価	授業中の小テストを20%、期末テストを80%で合算して評価します。			

授業 科目名	社会学 (Sociology)	履修年次: 選択	2 単位 30 時間	担当教員名: 島村賢一 (非常勤講師室)
		全学科専攻 1~4 年	コード: LAB103	
〔DP〕II コミュニケーション能力、VI 多職種との協働、VII 生涯にわたる探求心と自己研鑽				
〔授業の到達目標及びテーマ〕				
本講義では、社会学の基本的な考え方や方法を理解し、医療関係者として様々な社会現象を深く広く洞察できるようになることを目標に、以下のテーマを学習していく。				
社会学入門と社会学の歴史、社会調査法：医療関係者に必要な社会調査の基本とスキルを学習、社会学の基礎概念：行為、社会関係、集団、社会化、社会構造といった基本概念の学習、現代社会の諸相：家族とジェンダー、少子高齢化、労働世界の変容、民族問題、グローバル化				
〔授業の概要〕				
人間がいかに地球環境において他者と共に生きる存在であるのかを理解することを目的とする。そのために、自我、他者、役割、集団、組織、社会構造などの概念について学習する。そして、アイデンティティ、コミュニケーション、コミュニティ、家族、労働、グローバル化などの具体的現象をとりあげ、その現状と変化について社会的に考察する。そこから、現代社会における人間のあり方、人間と人間、人間と自然との関係、集団や社会のあり方を明らかにし、これからのあるべき姿について探求する。				
キーワード：地球環境、他者理解、集団、社会構造、グローバル化				
〔授業計画〕				
回数	日付	テーマ	内 容	
第1回	10/4	ガイダンス	医療関係者が社会学を学ぶ意味	
第2回	10/11	社会学とは何か	社会学という学問の特質	
第3回	10/18	社会学の歴史その1	19世紀の社会学者たち	
第4回	10/25	社会学の歴史その2	20世紀の社会学者たち	
第5回	11/1	社会調査の基礎	社会調査の基本的特質の理解	
第6回	11/8	量的調査	アンケート調査の方法	
第7回	11/15	質的調査	フィールドワークとヒアリングの方法	
第8回	11/22	社会学の基礎概念1	行為論と社会関係論	
第9回	11/29	社会学の基礎概念2	集団論と社会構造論	
第10回	12/6	家族とジェンダー	家族とジェンダーの歴史社会的考察	
第11回	12/13	少子高齢社会	少子高齢化と人口構造の変動の社会的意味	
第12回	12/20	民族とエスニシティ1	民族問題についての基礎概念と歴史的な理解	
第13回	1/10	民族とエスニシティ2	日本と欧州の外国人労働者問題	
第14回	1/24	グローバル化その1	ベックの世界リスク社会論その1	
第15回	1/31	グローバル化その2	ベックの世界リスク社会論その2	
履修条件	特になし			
予習・復習	予習としてプリントを熟読のこと。復習はメモとノートの見直しを推奨。			
テキスト	逐次、プリントを配布する			
参考書・参考資料等	ウルリッヒ・ベック著 島村賢一訳『世界リスク社会論』ちくま学芸文庫、2010			
学生に対する評価	期末理解度テスト(レポート形式)(40%)、研究レポート(30%)、日ごろの学習態度(30%)により総合的に評価する。			

授業 科目名	文化人類学 (Cultural Anthropology)	履修年次:選択	2 単位 30 時間	担当教員名: 中畑 充弘 (非常勤講師室)
		全学科専攻 1~4 年	コード: LAB104	
【DP】 倫理観とプロフェッショナリズム コミュニケーション能力 生涯にわたる探究心と自己研鑽				
〔授業の到達目標及びテーマ〕 「人類学」に限らず全ての人文科学・社会科学領域の subject および object は人間です。文化人類学は、文化の研究が目的なのではなくて、それはあくまで手段であり目的は人間の理解です。 他者や異文化に触れることで自己を捉え返し世界を問い直すという思考力の醸成、感性の涵養ができるようになります。 グローバル・ボーダレス・ダイバーシティ等「文化多様性」尊重の認識に立脚した国際的な視野を養うことができます。				
〔授業の概要〕 本講義では、人間とは一体、何であるのか？これまで何をしてきたのか？これからどこに向かっていこうとするのか？ 現在も人類をとりまく諸状況がどんなに激動・変転・混沌の環境下中にも私たちは自らを捉え返し何かを希求する強い衝動に駆られるのは何故か？そうしたことを念頭に文化人類学上の知識・理論・方法・技術を紹介します。				
キーワード: 文化・民族・民俗・聖/俗・世界観・死生観・性・生殖・婚姻・家族・親族・ネットワーク				
〔授業計画〕				
回数	日付	テ - マ	内 容	
第 1 回	4/12	人間・文化とは何か？	種族・人種概念 言語・思考の発生	
第 2 回	4/19	現代と文化人類学	社会と宗教 文化多様性と相対性認識 対立と連帯	
第 3 回	4/26	採集狩猟民と牧畜農耕民	バンド社会 アニミズム シャーマニズム トーテミズム	
第 4 回	5/10	贈与交換の人類学	マリノウスキーとモース レヴィ=ストロースの交換論	
第 5 回	5/17	婚姻・家族・親族	性の禁忌(インセスタブー) 外婚/内婚 忌避/冗談 関係	
第 6 回	5/24	祭祀儀礼と通過儀礼	呪術・妖術・邪術 超自然的資力 神話 コスモロジー	
第 7 回	5/31	シンボリズムと世界観	内/外 浄/不浄 聖/俗 あの世/この世 コミュニタス	
第 8 回	6/7	死者儀礼と祖先崇拜	霊魂と身体 憑依・供犠・再生観 植物状態と脳死状態	
第 9 回	6/14	文化変容の過程	文化の接触・伝播・拒否 モルガンの図式 新進化主義	
第 10 回	6/21	構造主義・機能主義	ラドクリフ=ブラウン マリノウスキー レヴィ=ストロース	
第 11 回	6/28	ジェンダーとセクシュアリティ	クラ交換 第3の性 トランスジェンダー	
第 12 回	7/5	医療と文化、性と生殖	民俗生殖観 人工授精と代理母 ジェニターとペイター	
第 13 回	7/12	観光と文化	文化遺産とノスタルジア グリーン・ツーリズム 地域活性化と開発	
第 14 回	7/19	文化人類学と民族誌	オリエンタリズム批判 ポストモダンの人類学 文化表象	
第 15 回	7/26	人間とネットワーク	血縁 地縁 社縁 女縁 情報縁	
履修条件	講義形式は、板書・パワーポイント・VTR(世界の諸民族)その他、適宜レジュメを配布します。			
予習・復習	特に予習する必要はありませんが授業当日の内容の復習をおこたらないようにしてください。			
テキスト	『沖縄 備瀬』著者:中畑 充弘 出版社:新典社 定価:1,540 円			
参考書・参考資料等	特に指定しない。授業の中で適宜紹介します。			
学生に対する評価	定期試験 80%、授業内の課題「小レポート」等 10%に加え 「授業への意欲的参加・建設的な意見」10%等の平常点を加算します。			

授業 科目名	経済学 (Economics)	履修年次:選択	2単位 30時間	担当教員名: 安孫子 誠男 (非常勤講師室)
		全学科専攻 1~4年	コード:LAB105	
〔DP〕 実践に必要な知識 多職種との協働				
〔授業の到達目標及びテーマ〕 現代の経済社会の構造と変容を捉えるうえで経済学的思考法がどのような意味と有効性をもつかについて学ぶ。半期を通じて、日々の新聞記事・論説のエッセンスを、経済学的根拠をもって解読できるような素養が身につくことを目標とする。				
〔授業の概要〕 「経世済民」の学としての経済学は、資源配分の効率性と分配の公正性を同時に探究する学問である。この授業では、経済学の学問体系を系統的に解説するというよりは、経済学の基本的ツールを用いて現代社会の構造と行動がどのように彫り深くみえてくるか、に力点をおく。講義の前段3分の2(第1~10回)は、通例のマクロ経済学の分析ツールを説明することにあて、後段(第11~15回)は、経済学の最近の成果をわかりやすく解説しつつ、多少とも国際比較の眼を養うことに資したい。				
キーワード: マクロ経済、有効需要、流動性選好、イノベーション、雇用流動化				
〔授業計画〕				
回数	日付	テ マ	内 容	
第1回	4/9	経済学の思考法	「経世済民」の学としての経済学、成長と分配の好循環	
第2回	4/16	マクロ経済学の考え方	新古典派経済学とケインズ経済学	
第3回	4/23	有効需要の原理	GDPの三面等価、GDPの決定と構成要因、消費関数	
第4回	4/30	投資・貯蓄バランス	財政収支、貿易・サービス収支、所得収支、経常収支	
第5回	5/7	貨幣の中立性をめぐる討論	貨幣数量説、貨幣の取引需要と投機的需要、流動性選好	
第6回	5/14	金融政策と貨幣供給	マネースtockとマネタリーベース、貨幣乗数	
第7回	5/21	経済成長と財政健全化	プライマリーバランス、経済成長率と金利	
第8回	5/28	財政再建の条件	プライマリーバランスの黒字化、国債<貯蓄の可能性	
第9回	6/4	国際経済をみる眼(1)	比較優位と国際分業、国際収支統計の見方	
第10回	6/11	国際経済をみる眼(2)	購買力平価、為替レートと国際通貨制度	
第11回	6/18	分配の公正性	ジニ係数の国際比較(再分配所得・ケイパビリティ)	
第12回	6/25	技術革新の経済学(1)	プロセス革新とプロダクト革新、需要創出型イノベーション	
第13回	7/2	技術革新の経済学(2)	技術レジームの構成要因、技術レジームと企業行動	
第14回	7/9	労働市場の経済学(1)	労働市場と技能形成、雇用システムの国際比較	
第15回	7/16	労働市場の経済学(2)	フレキシキュリティの国際比較	
履修条件	特になし			
予習・復習	前の週に紹介する資料を精読して授業に臨んでほしい。			
テキスト	なし。毎回 資料を用意する。			
参考書・参考資料等	吉川洋『マクロ経済学』(現代経済学入門)第4版、岩波書店、2017年 野口悠紀雄『どうすれば日本人の賃金は上がるのか』日本経済新聞出版、2022年			
学生に対する評価	日々の授業の取り組み度・理解度(20%) 中間レポート(40%) 期末レポート(40%)により、合計点で評価する。			

授業科目名	国際関係論 (International Relations)	履修年次 選択	2 単位 30 時間	担当教員名： 水口章 [難民審査参与員] (非常勤講師室)
		全学科専攻 1～4 年	コード: LAB106	
		実務経験のある教員による授業科目		
〔 DP 〕 生涯にわたる探究心と自己研鑽、 コミュニケーション能力				
〔 授業の到達目標及びテーマ 〕 本授業では、グローバル化と国民国家を理解するために必要な考え方を学び、(1) 国際時事問題、(2) 国、地域、人の相互依存関係の構築と変化、(3) グローバル化における多文化共生について考察する。そのことを通し、21 世紀の市民社会で必要な広い視野と知識を持てるようになる。				
〔 授業の概要 〕 今日の日本社会では、日常生活や職業の場で国際理解、異文化コミュニケーション能力が求められる機会が増えている。この授業では、国際ニュースをテーマに国際関係の基礎知識を学ぶ。また、相互依存関係と国際移民に関する学びでは、シンクタンクの研究者および法務省難民審査参与員の経験に基づく実学的内容を取り上げる。これらの学びから、国際理解を深めることができる。授業は講義形式が中心となる。 ----- キーワード: グローバル化、相互依存関係、市民社会、国際移民				
〔 授業計画 〕				
回数	日付	テ マ	内 容	
第 1 回	10/4	国際社会の歴史的变化	国際理解を深めることの意味	
第 2 回	10/11	国際関係の見方 1	パワーと国益について	
第 3 回	10/18	国際関係の見方 2	対立と協調	
第 4 回	10/25	国際関係の見方 3	規範と制度	
第 5 回	11/1	国家の能力	国家の能力と作用について	
第 6 回	11/8	国家と社会の関係	市民社会の誕生について	
第 7 回	11/15	国家とナショナリズム	ネーションとナショナリズムについて	
第 8 回	11/22	国家の社会福祉への介入	社会福祉制度への再配分について	
第 9 回	11/29	相互依存関係 1	国連の役割 (安全保障、人権) について	
第 10 回	12/6	相互依存関係 2	地域機構 (EU、ASEAN など) について	
第 11 回	12/13	相互依存関係 3	非政府組織 (NGO、民間企業) について	
第 12 回	12/20	国際移民 1	国際移民の歴史的变化について	
第 13 回	1/10	国際移民 2	国際移民のしくみについて	
第 14 回	1/24	国際移民 3	日本の外国人受け入れ政策について	
第 15 回	1/31	まとめ	レポート内容の概要発表とディスカッション	
履修条件	特になし			
予習・復習	予習資料を事前に熟読 (30 分程度) を行ってください。復習は、授業で使用した予習資料を読み返し、授業内容要点の文章化に努めてください (90 分程度)。			
テキスト	特になし			
参考書・参考資料等	適宜、授業資料 (プリント) を配布する。			
学生に対する評価	学期末レポート (70%)、授業内課題 (30%) により、総合的に評価する。			

授業 科目名	社会福祉学 (Social Welfare)	履修年次 選択	1単位 15時間	担当教員名: 佐藤真生子 [社会福祉士] (非常勤講師室)
		全学科専攻1～4年	コード:LAB107	
		実務経験のある教員による授業科目		
〔DP〕 実践に必要な知識、VI 多職種との協働、VII 生涯にわたる探求心と自己研鑽				
〔授業の到達目標及びテーマ〕 本講では「その人らしい生活を送るためには？」を大テーマとし、次の3点を主な到達目標としたい。 社会福祉の基本原則を理解する、現代社会における社会福祉の役割、課題を理解する。 社会福祉の問題や課題を自分自身にひきつけて見つけ、福祉社会における“一市民としての私”の役割、“一専門職の卵”として求められる役割について考えることができる				
〔授業の概要〕 私たちの人生は平坦ではなく、様々なリスクと隣り合わせである。それらが引き起こす生活問題は、個人の力だけで解決することは難しい。社会福祉はこのような生活上の困難を解消し、国民一人一人の生命や暮らしを守り、支えるための一つの手段であり、思想ともいえる。そこで本講では、当事者（患者や利用者）の自己決定権、ノーマライゼーションなど社会福祉の原則を中心テーマに学習を深めていく。社会福祉というと、とかく「困っている人を助けてあげる」イメージが強烈だが、そんなイメージを持っている人ほど受講してみたい。自分のモノの見方、考え方に向き合うスペシャルタイムになるかもしれない。授業は、受講生との対話を重視しつつ、動画視聴、ゲスト講話なども取り入れる予定。（シラバスは、順序や内容が一部変更となることもある）				
キーワード：生活問題、ノーマライゼーション、社会モデル、自己決定、自己実現				
〔授業計画〕				
回数	日付	テーマ	内容	
第1回	4/11	生活問題と社会福祉	生活問題とは何か、生活問題と社会福祉の関係は？	
第2回	4/18	社会福祉とは？	社会福祉はいつ、どこで、なぜ誕生し、どのように発展してきたか？	
第3回	4/25	社会福祉の原則その1	ノーマライゼーション思想をつかむ 普通って一体何だろう？なぜこの思想が誕生したの？	
第4回	5/2	社会福祉の原則その2	自立と「社会モデル」、新しい自立概念を学ぶ	
第5回	5/9	社会福祉の原則その3	自己決定と参加：当事者の自己決定権を支えるには？	
第6回	5/16	ゲスト講話から学ぶ	ゲストスピーカー講話	
第7回	5/23	ゲスト講話から考える	当事者の語りを踏まえ、援助の視点を学ぶ	
第8回	5/30	共生社会への取り組み	「地域で暮らす」ために 各地の先進的な取り組み、様々な社会資源を知る	
履修条件		毎回リフレクションを提出できること。 二年次の必修科目「保健医療福祉論」と連動する内容もあるので、この領域に興味がある学生は、受講してみるのもあり。		
予習・復習		事前配布資料などを読むこと・提示課題を行うこと		
テキスト		指定なし		
参考書・参考資料等		授業内で随時紹介する		
学生に対する評価		レポート（50％）リフレクション（50％）により総合的に評価		

授業科目名	国際的な健康課題 (Global health issues)	履修年次 選択	1 単位 15 時間	担当教員名: 牧 純 (非常勤講師室)
		全学科専攻	コード:LAB108	
実務経験のある教員による授業科目				
〔DP〕 実践に必要な知識、VI 多職種との協働、VII 生涯にわたる探求心と自己研鑽				
〔授業の到達目標及びテーマ〕 グローバルな国際保健の探求を究極のテーマとする。 具体的には、国際的な健康課題 (global health issues) について世界で起きている現状を理解し、健康の社会的決定要因と健康を関連づけて考えてみることを学ぶ。ともすれば個人の問題としてとらえられがちな健康課題を、とりまく環境と社会を背景に、今一度グローバルスタンダードから再考する。最終的には、国際医療協力のベースづくりを行うことにもなる。				
〔授業の概要〕 まずは世界に視野を広げてみる。自分が知らないことがいかに多いかに気付く筈である。地球上の人々の健康を考える際に、日本国内外の現場でおきていることとその背景、例えばインバウンドの急増も、現代的視点から考察する好機となる。講義は、健康とは何かの定義から始まり、ワークなどもとりいれて、健康科学の世界的な視座を自身に構築することを目指す内容となっている。本内容は、担当教員の JICA 実務経験が大いに生かされる。				
キーワード:国際保健、国際医療協力、健康課題、感染症、非感染症 (いわゆる NCD)				
〔授業計画〕				
回数	日付	テ マ	内 容	
第 1 回	10/3	イントロダクション	地球規模で立体視すべき国際保健	
第 2 回	10/10	21 世紀における健康観	国際保健のあるべき理想像、例:温泉の活用	
第 3 回	10/17	世界の健康・不健康の現状	世界の人々の健康課題に関する現状、史的考察	
第 4 回	10/24	世界的な健康課題 (1)	国際協力を必要とする感染症、寄生虫対策	
第 5 回	10/31	世界的な健康課題 (2)	国際協力を必要とする非感染症対策、教科書・ノート参照によるミニレポート作成	
第 6 回	11/7	世界的な健康課題 (3)	今我々の出来ること、行うべきこと	
第 7 回	11/14	まとめとミニレポート作成	全体を整理しながら話し合う	
第 8 回	11/21	最終の確認	ミニレポートをもとに補充と確認	
履修条件		特になし、国際舞台で活躍したい方々に好適な授業内容		
予習・復習		予習はテキストの熟読、復習はノートの見直しを推奨。		
テキスト		牧 純著『国際医薬史入門』(青山社 ISBN9784883593385)		
参考書・参考資料等		授業中に適宜指示。例年、目黒寄生虫館の見学を推奨。		
学生に対する評価		評価の重きは第 7 回 (又は 8 回) 目の期末レポートに約 50% 配分、残りは第 5 回目の授業中に実施のミニレポート記述。いずれの場合も教科書とノート参照可。暗記力を見ることは一切しない。授業内容とその趣旨の理解度、および日頃の学習態度、とりわけ授業を傾聴しているか、教科書などを精読しているかが判断材料。		

授業 科目名	人権・ジェンダー (Human Rights and Gender)	履修年次:選択	2 単位 30 時間	担当教員名: 島村賢一 (非常勤講師室)
		全学科専攻 1~4 年	コード: LAB109	
〔DP〕Ⅰ倫理観とプロフェッショナリズム、Ⅱコミュニケーション能力、Ⅵ多職種との協働				
〔授業の到達目標及びテーマ〕医療関係者にとって不可欠な人権感覚を培うために、人権の基本と権利の平等を学習する。さらに現代社会が抱えているジェンダーの不平等について考察し、男女共同参画社会の実現のための方法を探求する能力を得られるようにする。				
〔授業の概要〕現代社会におけるジェンダーの不平等にはどのようなものがあるのだろうか。この授業では、そのような不平等を人権という観点から歴史的に考察する。さらに 20 世紀後半以降の女性の地位向上に向けた世界的な取り組みを概観し、どのようにしてジェンダーの平等な社会を実現していくのかについて考える。政治や労働、教育、家族など、女性と男性がおかれている状況の違いとその背景を取り上げ、諸外国との比較も行いながら、比較社会論的な考察も加える。				
キーワード: 人権、平等と不平等、ジェンダー、男女共同参画社会、国連				
〔授業計画〕				
回数	日付	テ ー マ	内 容	
第 1 回	10/7	ガイダンス	講義内容、参考文献、評価基準などについて	
第 2 回	10/21	近代社会と人権	近代社会の特質と人権の関連についての基本的理解	
第 3 回	10/28	ジェンダーとは何か	ジェンダーに関する基礎概念の理解	
第 4 回	11/11	第 1 波フェミニズム	女性の参政権と法的平等	
第 5 回	11/18	第 2 波フェミニズム	「男性社会」への異議申し立て - 欧米と日本 -	
第 6 回	11/25	国際社会とジェンダー	国連と女性差別撤廃条約	
第 7 回	12/2	家族とジェンダー	家族とジェンダーの歴史社会学的考察	
第 8 回	12/9	ジェンダーと労働 1	アンペイド・ワークと近代社会	
第 9 回	12/16	ジェンダーと労働 2	日本型企业社会とジェンダー	
第 10 回	12/23	ジェンダー統計	統計からみた日本のジェンダー不平等の現状	
第 11 回	1/6	人権とは何か	人権の発展と類型に関する歴史的考察	
第 12 回	1/20	性と生殖の健康・権利	産まない自由と産む自由	
第 13 回	1/27	暴力とジェンダー	親密な関係性のなかでの暴力、DV防止	
第 14 回	1/29	ジェンダー平等政策	ジェンダー平等政策の各国比較	
第 15 回	2/3	男女共同参画社会とは	男女共同参画社会基本法の目標と課題	
履修条件	特になし			
予習・復習	予習としてプリントを熟読のこと。復習はメモとノートの見直しを推奨。			
テキスト	逐次、プリントを配布する			
参考書・参考資料等	参考文献は授業中に指示する。			
学生に対する評価	期末理解度テスト(レポート形式)(40%)、研究レポート(30%)、日ごろの学習態度(30%)により総合的に評価する。			